16月魚（三浦しをん）

　　――友人・本田の父が営む古書店『』で、幻の『獄記』を見つけたは、思わず「この本をくれ。」と言ってしまう。……

　瀬名垣がかざした本を、『無窮堂』の店主だった真志喜の父親は（　Ａ　）見た。そしてぞんざいに、「ああ、どうせ捨てる本だ。欲しければ持っていくといい。」と言った。瀬名垣は①心にを叫んだ。そのとき、傍らで瀬名垣の父親と雑談していた（店主の父親）本田翁が、穏やかに声をかけてきた。

　「太一、その本をちょっと見せておくれ。」

　瀬名垣はもちろん、本田翁に見せたくなかった。②目利きの評判をほしいままにする翁は、この掘り出し物の価値を（　Ｂ　）一目で見抜くだろう。そうなったら、この本は取り上げられてしまう。ためらっていると父親が、「さっさと翁に渡せ。」と（　Ｃ　）目で合図する。誰のためにこれを自分のものにしようとしているかわかってるのかなあ、と③苦々しく思いながら、仕方なく本田翁に手渡した。『獄記』を持つ本田翁の手は震えた。そして翁は、瀬名垣を（　Ｄ　）見据えた。

　「これがなんなのか、わかっているのか、太一。」常に優しい老人が、これほど鋭く真剣なしを瀬名垣に向けたのは初めてのことだった。瀬名垣はなんと答えるべきか困った。だが結局、④誇りも手伝って、「うん。」と一言、はっきりとうなずいた。本田翁は笑った。「見事じゃ、太一。おまえは本当に頼もしい男だ。わしですらこうして震えがきているというのに、おまえはわかっていてなお動じもしない。」

　本田翁は『獄記』を瀬名垣の手に返した。瀬名垣は（　Ｅ　）戻してもらえるとは思っていなかったので、本田翁の深いの刻まれた顔をまじまじと見つめた。本田翁は⑤もう一度みしめるように言った。「見事じゃ。」瀬名垣の父親は、息子の手にある古びた本と敬愛する老人の顔とを忙しく見比べた。

　「一体なんの話ですか、翁。」（店主の）真志喜の父親も、本を束ねていた手を止めて歩み寄ってくる。「どうなさったんです、お父さん。」「みんな、よく見ておきなさい。真志喜もおいで。」瀬名垣のまわりに、居合わせた人間が集まった。

　瀬名垣は、今までつないだままでいた真志喜の手を引き寄せる。本田翁のおごそかな声が響いた。

　「これが幻の本。『獄記』だ。」声にならない動揺が、二人の父親たちの間を走り抜けた。「はあ、これが……。」ようやく瀬名垣の父親の口から間の抜けた感嘆の声が上がったとき、真志喜の父親はついと表に出ていった。「あ、本田さん……。」瀬名垣の父親の呼び止める声も聞こえないようだ。本田翁は肩を落とした。

　「放っておいてやってくだされ。瀬名垣さん、⑥あんたもわかるでしょう。『無窮堂』は十二歳の男の子に、この世に一冊しかなを掘り出されたんじゃ。」

＊語注

＊稀覯本…めったに見られない、めずらしい本。

問１　（　）Ａ～Ｅに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

（同じことばは二度使わない。）

ア　ひたと　　　イ　ちらりと　　　ウ　しきりに

エ　さすがに　　オ　まさか

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

Ｄ＝（　　　）　　Ｅ＝（　　　）

問２　――線部①の説明として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　心中で、喜びの声をあげた。

イ　思わず、大声で叫んだ。

ウ　大きな達成感を感じた。

問３　――線部②の説明として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　書物を鑑定する能力にいつも磨きをかけている翁。

イ　書物を鑑定する能力がほしくてたまらないでいる翁。

ウ　書物を鑑定する能力を誰からも認められている翁。

問４　――線部③について、「誰」のために太一は自分のものにしたがっているのか。文中から二字で抜き出して答えよ。

〔　　 　〕

問５　――線部④について、「誇り」の内容として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　自分の能力の高さを周囲に認められたこと。

イ　自分自身で価値のある書物を掘り出したこと。

ウ　本田翁からじかに言葉をかけられたこと。

問６　――線部⑤について、前に言ったことが書かれている一文の最初の五字を答えよ。

〔　　 　　　　〕

問７　――線部⑥について、何が「わかる」のか。簡潔に記せ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

【解答】

問１　Ａ＝イ　Ｂ＝エ　Ｃ＝ウ　Ｄ＝ア　Ｅ＝オ

問２　ア

問３　ウ

問４　父親

問５　イ

問６　見事じゃ、

問７（例）『獄記』の価値を見抜けず、子供に掘り出されてしまった店主の気持ち。

ポイント

問２　「快哉」は、「快なるかな」の意。大きな喜びを表す表現。

問３　「目利き」は「ものの良否を見分ける力のある人」のこと。

問６　本田翁の「見事じゃ。」は、実は二度目。先に笑いながら、「見事じゃ、太一。」と言っていた。